

令和6年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月21日(水)

会 場:三良坂コミュニティセンター

参加者数:35人

参加者の発言	市の発言	備考
各自治振興区には、それぞれ課題がある。原点に戻らなければならないと思う。日本国憲法92条には地方自治に関する条文がある。地方自治の本旨についてどのように考えているか。	地方自治とは、自分たちでこの地域を考え、いろいろな取組を行っていこうという、まさに、本市がめざしている原則が凝縮されていると考える。それを基本に、市民と行政、いろいろな団体や事業者がつながり、新たな付加価値を創出することで、三次らしい取組ができると考えている。地方が自立することこそが、地方自治であると考えて、取り組んでいる。	
寺町廃寺跡の活用と旧仁賀小学校に保管している文化財をどう活用していくのか。	旧仁賀小学校では、文化財を保管している。寺町廃寺跡は、地元以外にも注目を浴びている重要な史跡である。現在、整備事業を進めており、8回の発掘調査を基に、活用していくための検討を進めている。計画が出来れば、具体的に整備を行う。併せて、旧仁賀小学校に保管している文化財を活用できるように検討していきたい。	
旧仁賀小学校の体育館の屋根の下に、スズメバチの巣があるので気を付けてほしい。	情報提供をいただき、感謝する。	
市立三次中央病院の完全個室化について、イメージがわからない。例えば、骨折した人など感染症に関係のない方は、相部屋でいいのではないか。相部屋の人から情報を聞くこともいい経験である。個室では、看護師も忙しく、対応しにくいのではないか。大人数であれば、看護師が部屋に来られた際に話をすることができる。完全個室化にすれば、お金がかかるのではないか。反対に困ることがあるのではないか。	市立三次中央病院について、完全個室化は、プライベートの確保と、感染症対策を重視している。コロナ禍では、病棟の一部を閉めるなどの病院機能を縮小せざるを得なかった。感染症に強い病院は、今後重要となる。看護師の負担にならないように、設計の段階から綿密な計算をしていく必要がある。視察した病院では、当初看護師は反対をされていたが、建設する側が現場にアリングを実施しながら課題を改善し、開設1年後のアンケートでは、9割が個室にしておかったという結果になったと聞いた。また、認知症が個室だと進行するという声もある。完全個室化について柔軟な対応を検討している。	
鳥獣被害がひどくなっている。まず、柵等の設置資材の補助や、高齢の方の設置作業を若者がサポートするなど、補助事業の充実を検討してほしい。また、駆除班の派遣も必要である。イノシシを捕獲した際の補助を増額してほしい。駆除班の高齢化も問題であり、若い方に猟銃を扱ってほしい。射撃場のような場を整備して、スポーツで健康増進を兼ねつつ、その延長でイノシシやシカを駆除する。また、鳥獣対策を行っていることをPRしたら、他の地域から人を呼び込めるのではないか。	鳥獣被害の軽減に向けた取組を進めている。駆除班や地元の皆さんにご協力いただき、捕獲頭数は増えている。報奨金の見直しについては、意見が出ている。限られた財源の中で対応しなければならず、最小経費で最大の効果が上がるように、調査研究を行っている。市では狩猟免許の支援事業行って、女性や若手のハンターを募いる。今後も啓発を行って、駆除班の低年齢化につなげていきたい。また、イノシシやシカの研究を行っている鳥根県美郷町などを参考にして取り組んでいきたい。	
灰塚の国土交通省の跡地にドリームオンラインというIT企業が入る。三良坂中学校の立志式では、プログラマーになりたいという生徒がいた。これからの時代は、ITに強い子を育てた方がよい。県北地区に残って仕事ができる。夢があり、期待している。	東京でIT関係の仕事をしなくても、今のIT社会においては田舎暮らしをしなが、東京にいるような最先端の仕事ができる。このような動きを止めず、引き続き伸ばしていきたい。三次市にはIT関連企業の引き合いもあり、土に触れながら、最先端の仕事をしたいなどの考えをもつIT企業の社長もおられる。そのような企業との連携を強化していくことによって、IT関連企業の誘致や、市内での創業支援につなげていきたい。ドリームオンラインはプログラマーの育成や、独立したプログラマーがIT関係の仕事をしていく企業である。市として、ドリームオンラインと連携しながら、今後の創業支援や新たな仕事の創造に結びつくような取組をしていきたい。	
みらさか学園のグラウンドは、雨が降るたびに土が流れていく。水はけはいいが、流れた土を処理するため、教職員が作業をされている。どうにかならないか。	みらさか小学校・三良坂中学校の子どもたちを地域で育てていただき、感謝を申し上げる。グラウンドの土については、すぐに対応できないが、課題として認識している。定期的に状況を確認する。	
三良坂中学校の入口の壁に、色を塗ってもらえないか。子どもたちが卒業写真を見た時に、寂しい気持ちになるのではないか。他の地域の小学校がきれいになるのであれば、三良坂中学校も同じように対応してほしい。	学校施設については、優先順位をつながら対応している。昨年度、雨漏りなど、校舎の屋上の防水工事を行った。生活に支障がある場合、あるいは、危険なところがある場合を優先せざるを得ない。いろいろな施設があり、情報収集しながら対応している。まずは安全・安心な生活環境の整備を優先的に行っていききたい。その上で、できる箇所から、工夫しながら対応する。	
ドリームオンラインが求人されている。いい企業が進出してくるのに、応募する人がいないのはどうか。行政として支援できないか。この会場の皆さんも、ドリームオンラインを調べてほしい。いい企業であるので、ぜひとも知り合いに紹介してほしい。	ドリームオンラインの求人については、承知している。ハローワークなどに任せている。市では、連携協定を締結したことについて情報を発信している。	
三次市は、河川が非常に多く、災害といえば水災害が多く発生することが多い。南海トラフ地震が発生すれば、三良坂地域にも影響が出てくる。地震の発生予知について、ある程度研究はされているが、突発的なものであると思われる。行政には、住民の意識向上をめざして、事前の備えや早めの対応を呼びかけてほしい。	三次市は水害リスクが非常に高い地域である。行政と市民が、危険箇所を把握することが重要である。市のホームページではハザードマップなどを閲覧できる状況になっているので、確認し、自分たちの生命は自分たちで守ることを優先してほしい。例えば、マイタイムラインを活用し、自分の家の周りにはどういった災害のリスクがあるかを把握し、災害が起きた時には、どこへどのように避難するか、要配慮者などのように一緒に避難するかなどシュミレーションを行ってほしい。行政や住民自治組織の皆さんと連携し、取組を重ねながら、防災意識を高めていくことが大事である。市民の皆さんができること、行政ができることを確認し、連携しながら、防災減災につながる取組を強化していきたい。	
子ども未来政策という看板を掲げ、子どものための未来づくりの活動を行っている。中山間地域を発展させたいと考えている。帰ってきたと思う施策について、具体的に教えてほしい。	第3次総合計画をしっかりと進めることが、まずは大きな目標となる。この計画に紐づく事業を社会情勢に応じて取り組んでいきたい。キーワードは「三次らしさ」である。三次にしかできないことに、どう付加価値をつけていくかを取り組み、挑戦し続けていきたい。	
旧仁賀小学校は避難施設になっているが、トイレが不便である。トイレが狭いことは前から言われているが、車椅子に乗っているとよくわかる。障害者にやさしいトイレにしてほしい。	障害者差別解消法は、行政や民間企業にも義務化されており、ユニバーサルデザインの取組は基本的なこととなる。旧仁賀小学校は地域避難所として、計画的に進めながら、バリアフリー化に向けて取り組んでいきたい。	